

# R 5 学習指導案形式（教科）

第〇学年〇組    〇〇科学習指導案

令和〇年〇月〇日  
指導者    〇〇〇〇

1 単 元（題材名）    〇〇〇〇〇〇

2 目 標

※ 学習指導要領解説の該当する指導事項を基に書きます。

- ～することができる。～理解する。（知識及び技能）
- ～することができる。～を考察し、表現する。（思考力、判断力、表現力等）
- ～伝え合おうとする。～しようとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）

本単元の目標と単元の評価規準は、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（以下、「一体化資料」とする）（国立教育政策研究所）を参考にして作成してください。

3 単元の評価規準

| 知識・技能                         | 思考・判断・表現                      | 主体的に学習に取り組む態度                 |
|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| ①                   【例】 2 / 5 | ①                   【例】 1 / 5 | ①                   【例】 4 / 5 |
| ②                   【例】 4 / 5 | ②                   【例】 5 / 5 |                               |

本単元（題材）の目標を基に、「一体化資料」を参考に作成してください。



参考資料 QR コード

4 指導観

- [教材（題材）観]
  - ※ 学習指導要領との関連、教材（題材）の教育的意義や主なねらい、本質的なとらえ方、系統の位置付け等を明確に記述する。
- [生徒観]
  - ※ 単元に関する知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度について、生徒の特性や傾向等を記述する。本単元につながるこれまでの学び、県学力診断のためのテストの結果やレディネステストなどの実態調査（できるだけ数値化したもの）から、本単元における生徒の身に付けたい資質・能力などを記述します。
  - ※ 「本学級は男子〇名、女子〇名、明るく元気な生徒が多い。」などは記述しない。
- [指導観]
  - ※ 生徒観に書かれた課題を受け、単元のねらいに迫るための指導上の手立てを記述します（カリキュラム・マネジメントを意識した手立てなども入れるとよい）。
  - ※ 教材（題材）観、生徒観をもとに、「〇〇の手立て（〇〇の活動）を通して目標に迫る」という授業者のねらいや意図を明確に記述する。
  - ※ 学校の教育目標、研究テーマ（すべての生徒たちが「分かる・できる」と実感できる授業の構築）等と関連付けて記述する。また、教材（題材）観、生徒観との整合を図るようにする。

5 単元の指導計画（全 時間 本時 Δ/〇）

○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面

| 次 時 | 学習活動及び内容   | 知 技 | 思 能 | 評価及び評価方法等  |
|-----|--|-----|-----|--|
| 1   | 1  | ○   |     |  |
|     | 学習問題（学習課題）<br>育成したい資質・能力や主体的・対話的で深い学びに関わる主な活動を入れます。（※1）<br>単元の学習問題（学習課題） |     |     | 知：（◎記録に残す評価場面までにこの段階では何を理解しているか）について見取り、理解していない生徒には（理解できる様にするための手立て）を講じる。<br>【ワークシート、観察】 |

|         |   |   |   |
|---------|---|---|---|
| 2       | <p>観点別の学習状況についての評価は、毎回の授業ではなく単元や題材など<b>内容や時間のまとまりごと</b>に、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、評価する場面を精選することが重要です。</p> <p>まとめ（結論）</p>  | ○ | <p>態：（学習活動に）向かっていない生徒を見取り、（活動に向かうための手立て）などの指導を行う。【観察】</p> <p>○指導に生かす評価場面は、単元の評価規準を（1時間ごとや）内容のまとまりに落とし込み、何について見取るかを具体で表すと共に、Cと判断される生徒についての手立てを示します。</p>  |
| 2       | 3   | ○ | <p>知：（◎記録に残す評価場面までに、この段階では何が身に付いているとよいのか）について見取り、身に付いていない児童生徒には（身に付くための手立て）を講じる。【ワークシート、行動観察】</p> <p>本時は強調して詳しく記述します。（※2）</p>   |
| 4<br>本時 | <p><b>目標：</b></p> <p>本時の目標をゴシック体・太字で記述します。</p> <p>1</p> <p>学習問題（学習課題）</p> <p>矢印の整合性を意識してください。</p> <p>2</p> <p>その時間に育成する資質・能力を達成するための学習問題（学習課題）を設定します。</p> <p>3</p> <p>正対します。</p> <p>4</p> <p>まとめ（結論）</p> <p>5</p> | ○ | <p>思：（◎記録に残す評価場面までに、この段階では思考・判断・表現しているか）について見取り、できていない児童生徒には（できるようにするための手立て）を講じる。【ワークシート】</p> <p>・1人1台端末を使用し、全体での意見共有を促す。</p> <p>「8 学習指導過程」で記述する内容なので、この太枠囲みの中は簡潔に記載すること</p> <p>◎知：～している。【ワークシート、小テスト】</p> <p>◎まとめ（結論）が評価に結びつくようにします。</p> |

|   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| 3 | 5 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">単元の学習問題（学習課題）</div> <p>*****<br/>*****</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">まとめ（結論）<br/>振り返り</div> | ◎ | 思：～している。【ワークシート】<br><br>◎ 態：～しようとしている。<br>【観察・ワークシート】 |
|---|---|---|---|---|

単元の最後なので、単元を貫く問いに対してまとめるとともに、単元を通して何を学んだか、生徒が振り返られる時間を設けます。

単元を短く設定した場合、記録に残す評価（◎）で終わらず、次の単元につなぐ場合もあります。

〔主体的に学習に取り組む態度①〕  
 観察・ワークシート  
 自分の経験等とも結び付けて考えようとしているか確認。

記述の一例です

- ※1 指導計画は、単元のまとまりを見通し作成します。したがって、学習内容・活動の欄には、その時間に育成したい資質・能力や主体的・対話的で深い学びに関わる主な活動を入れます。
- ※2 授業公開や学校訪問等を行う場合は、内容や活動を詳しく示すとともに、評価及び評価方法等の欄に、配慮事項などを加えるなど、参観者に本時の学習の流れが分かるように工夫するとよい。

#### 6 本時の目標

- ～することができる。～理解する。（知識及び技能）
- ～することができる。～を考察し、表現する。（思考力、判断力、表現力等）
- ～伝え合おうとする。～しようとする態度を養う。（学びに向かう力、人間性等）

※ 単元の指導計画を元に必要な項目だけを記述します。  
 （多くても2つまでが妥当です。）

#### 7 本時の評価規準

- ※ 本時の目標と対応させる。
- ※ 単元の評価規準をもとに、本時で「おおむね満足できる状況（B）」とする生徒の状況（姿）を想定して設定する。

8 学習指導過程 ※指導上の留意点と評価を同じ枠内に記述

| 学習<br>段階   | 学習活動及び内容   | 指導上の留意点   | 評 価  |
|------------|--|---|--|
| 導入<br>(○分) | 1 ……する。<br><b>学習活動と学習内容を区別して記述する。</b>  | <b>教師の立場で記述</b> (学習活動は書かない。)<br>○ …できるようにする。<br>○ …配慮する。<br>○ …気付かせる。<br>○ …させる。 等  |  |
| 展開<br>(○分) | 2 学習課題をつかむ<br>学習課題を書く<br>提示のタイミングは、授業の始めである必要はない。適切なタイミングで提示できればよい。<br>※ 展開の順に <b>生徒の立場</b> で記述する。<br>【生徒の立場の文体】<br>(○○考える)<br>(○○取り組む)<br>(○○調べる)<br>(○○発表する)<br>3. タブレットに表示された図に、見つけた体の特徴を書き込む<br>4. 各班の発表をもとに結論を出す。<br>生徒に「分かった」「できた」と最も感じさせたいと考えている『授業の山場』となる学習活動を太ゴシック体で記述する。 | 例 前時の内容を振り返り、 <u>定着の度合いをそろえることで、安心して授業に参加できるようにさせる。</u><br>例 関係する写真を提示し、 <u>写真に関する問いから始めることで学習内容に興味をもてるようにさせる。</u><br>例 <u>必要なキーワードを全員で確認することで、どの生徒も考えやすくさせる。また、穴埋め式のヒントカードを用意することで、文章記述が特に苦手な生徒でも書きやすいように配慮する。</u><br><b>【指導上の留意点の書き方】</b><br><b>生徒のつまずきを想定しながら、そのための方法を記述する。</b><br><b>Aする(させる)ことで、Bする(させる)</b><br>ICTを活用した学習活動の部分を、点線四角で囲む<br>C評価の生徒に対する具体的な手立てを記述する必要がある。 | 【思考・判断・表現①】<br>ワークシート<br>叙述をもとに太ーがもりを打たなかった理由を想像し、自分の考えをまとめているか確認。 |
| 終末<br>(○分) | 5. 本時の振り返りをする  | ※ 何が分かって、何が分からなかったのかを、生徒が自覚できるような方法を考えるとよい。   |  |

9 板書計画 (細かく記述する必要はありません。)

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>※ その時間の学習課題(目標)を明示する。</li> <li>※ 構造的・計画的な板書になるように心がける。</li> <li>※ 色チョークの使い方を工夫する。(色覚の特性に配慮する)</li> <li>※ 授業の流れがわかるようにする。</li> <li>※ 図式的板書の場合、生徒が理解しやすいように工夫する。</li> <li>☆ 1時間終了後、授業の振り返りや家庭学習に活用できるような板書を意識する。</li> </ul> |
|--|

